

【三木町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

令和6年6月に、県及び県内の学校設置者が構成員である香川県 GIGA スクール構想推進協議会において、本県における「ICT 環境によって実現を目指す学びの姿」を、「香川の どこでも 誰もが 質の高い教育を受けられる」ことに定めた。

2 GIGA 第1期の総括

コロナ禍においても学びを保障するため、急ピッチで学校 ICT 環境の整備を完了させたところであるが、あらかじめの準備作業等も十分でないまま整備を行ったこともあり、学校間で ICT 活用の取組状況等も異なっている。

また、自治体間での情報共有等もないまま、ICT 環境の整備を実施したことから、他市町からの人事異動で配属となった教員は、その環境差に戸惑う教員がいることも事実である。

GIGA 第2期に向けては、児童生徒1人1台端末の共同調達等をはじめ、県内の設置者間・学校間の ICT 環境及び ICT 活用状況についての情報を共有することが、「香川の どこでも 誰もが 質の高い教育を受けられる」ことを実現する上でのファーストステップになると考える。

3 1人1台端末の利活用方策

【総論】

本町では、児童生徒が、ICT を受け身に捉えるのではなく、主体的に活用することで、より良い社会を創っていける人材に育つことを目指す。

そのために、児童生徒1人1台端末環境の継続をはじめとした、学校教育において児童生徒が日常的に ICT を活用できる環境の整備、また、授業等での適切かつ効果的な活用と児童生徒の主体的な活用を経て、未来の社会で生きていくために必要な資質・能力を育む。

【1人1台端末の積極的活用】

授業等での端末等の ICT 機器を、教員が「教えるための道具」として活用することに加え、児童生徒が「学ぶための道具」としても積極的に活用していくことで、児童生徒の資質・能力の育成に資することができると考える。

そのためには、1人1台端末を、教員の指示により活用するだけでなく（児童生徒の発達段階等によっては必要な場面もある）、活用の仕方を子どもに委ね、端末をいつ、どのように使うかは児童生徒自身が決められるようにすることが重要であり、そのような授業等への転換を目指す。

【個別最適・協働的な学びの充実】

従来の方法による授業と ICT の活用のベストミックスに引き続き取り組み、個別最適な学びと協働的な学びを実現することによって、児童生徒の資質・能力の育成を目指す。

【学びの保障】

ICT の持つ特性を最大限活用して、様々な理由により登校が難しい児童生徒や、障害等により特別な配慮や支援が必要な児童生徒に対するきめ細かな対応を行い、「全ての子どもたちの可能性を引き出す」ことを目指す。